

事例 13 パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社

～ 会社、健康保険組合、労働組合が三位一体となった活動 ～

～ メタボリック症候群、メンタル疾患等の5つの重点を定め、生活習慣の改善、コミュニケーション向上、健診受診の3つの予防活動を展開 ～

1 企業の概要
<ul style="list-style-type: none">○パナソニック(株)の社内分社で車載インフォメーションおよび「車載」「産業」分野を中心とした向け電子部品、電池、半導体等を製造・販売。○従業員数は国内約 29,000 名、グローバル 103,000 名。
2 健康確保対策の特徴
<p>(1) 取組の体制、経緯、方針</p> <ul style="list-style-type: none">○パナソニック全社において会社、健康保険組合、労働組合が三位一体の健康パナソニック推進委員会（年 2 回、人事担当常務、労組委員長、健康保険組合の長で構成）及び推進タスクフォース委員会を設置。また本社が労働安全衛生宣言、労働安全衛生行動指針を公表。○オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社として上記の全体方針に基づき具体的施策を計画・推進。○90 年代は指針に基づいた健康づくり活動を展開。2000 年以降は「健康日本 21」に基づいた活動へ移行。 <p>(2) 取組の内容、目標設定、成果</p> <ul style="list-style-type: none">○「健康パナソニック 2018」として活動展開。メタボリック症候群、メンタル疾患等の5つの重点を定め、生活習慣の改善、コミュニケーション向上、健診受診の3つの予防活動を展開。全社で玉入れ大会（AJTA）等も実施。○在職死亡率、退職率、医療費低減を全体目標値とし、その達成に向けた KPI（喫煙率、健診受診率、歩数自覚率、運動実施率、肥満陽性率、行事実施率・参加率等）を設定。○2018 年度の重点テーマは肥満に着目した 40 歳未満への保健指導、肥満と転倒に着目した筋力づくり活動。○WEB サービス「いきいき健康ナビゲーション」により、個人の活動を見える化し、ベジファースト、職場体操、ウォーキングラリー、禁煙ラリー、ハッピー（歯磨き）ラリー等の活動への参加と記録。○個人の活動参加等に対し、ヘルスアップポイントの付与。 <p>(3) 社会的な評価</p> <ul style="list-style-type: none">○OHSAS 1 8 0 0 1 認証○健康寿命をのばそう！アワード第 3 回（パナソニック健保組合として） <p>(4) 自社の状況（強み・弱み等）を踏まえた工夫や、取組が上手くいくポイント</p> <ul style="list-style-type: none">○全社体制が整備され、各種プログラムや教育資料等が提供される。また、KPI は事業場の全社内での位置づけが明確になり、重点取り組みや事業場内の取組への理解が得られやすい。